目的：利用者の利便性向上と観光周遊促進、事業者の業務効率化の実現

- エアライン運行情報の連携による空港運営事業者やバス乗務員の業務効率向上とバス利用者等のMaaSアプリ等でのエアライン遅延による二次交通の利用不安の解消。
- MaaSアプリへの旭川市内の観光情報表示等の機能追加と交通と観光施設等を合わせたデジタルチケットの造成により、観光客の周遊促進を実施する。

事業内容：交通データ連携・活用による地域交通高度化と周遊促進

【交通サービスの高度化】
- エアライン連携システムの構築により、空港運営事業者やバス事業者は、情報連携のための連絡業務等を軽減し、業務の効率化を実現。また、地域住民や観光客等のバス利用者、バス運行関係者が空港内サイネージや専用Webアプリでバス発車時刻変更等をリアルタイムで確認できる環境を構築した。

【モビリティデータの取得と活用】
- MaaSアプリに旭川専用画面を実装し、QRスキャンによるバス乗車やクーポン利用による移動等のデータを取得。利用者属性や消費傾向を分析し、協議会にてバス事業者の運行計画や観光事業者への商品開発等を提言し、次年度以降の連携した取組を合意。

【エンドコンテンツ連携による周遊促進】
- MaaSアプリへの旭川市内の観光情報表示等の機能追加による利便性向上と旭川市内と空港間のバス乗車と観光施設等のクーポンをセットにしたデジタルチケット（あさくるパスPlus）を造成し、観光客の周遊促進を実施した。

効果

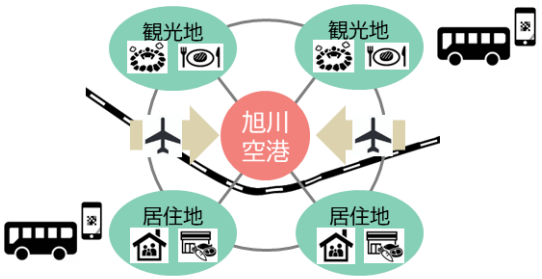
- 課題：事業者の情報連携の負荷軽減と観光客等利用者のエアライン遅延時の二次交通の接続不安解消や観光周遊の促進
- 効果：エアライン連携システムの構築で事業者の業務効率化と利用者の二次交通利用の利便性を向上。また、デジタルチケットは、359枚を販売（昨年比1.5倍）し、観光周遊の促進を実現。

【実施エリア】

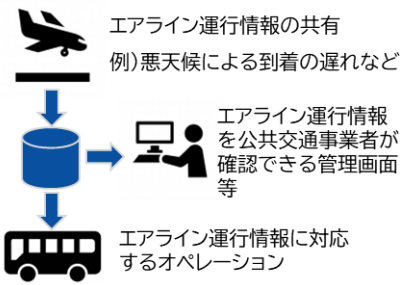


【本事業の取組の全体像】

エンドコンテンツ連携による周遊促進



エアライン運行情報と公共交通の連携



【MaaSアプリの画面】



【エアライン連携システムの画面】



Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.

プロジェクトの効果

課題に対する効果

#	課題	効果
1	住民・観光客の郊外の交通不便やエアライン遅延時の二次交通接続への不安など移動課題の解消が必要	MaaSアプリでの経路検索から決済までの実現によりバス利用をし易くするとともに、観光情報の表示による新たな訪問機会や選択肢拡大により移動や観光を促進。
2	利用者減、運転手不足、事業者間の人手等の交通事業者の持続可能性と業務の効率化	・エアライン遅延情報連携のシステム化による事業者間の連絡業務の負荷を軽減 ・MaaSアプリによる移動実績を可視化し、将来の路線再編に資するデータを収集
3	地域の観光振興と観光客の周遊促進による地域内消費の拡大	・観光施設等の優待特典により、利用者が複数施設を訪問する等の周遊を実現。 ・データ分析から人気コンテンツ等を特定、今後の商品設計の指針を得た

KPI

【凡例】 赤字：目標達成　青字：目標未達成

#	測定項目	KPI	計測方法	計測頻度・回数	事業実施年度の目標値	最終結果	達成/未達成の原因
1	MaaSアプリ利用者の増加	SCモード利用者数	ジョルダンDB	毎月	8,000人	5,350人	MaaSアプリの認知から実際の利用につなげる、転換率の向上が不足していたため
2	デジタルチケット利用者の増加	チケット販売数	ジョルダンDB	毎月	1,200枚	359枚	QRコードのUX（利用しにくさ）が要因となる。なお、昨年比1.5倍の販売実績であり、造成効果はあった。
3	公共交通利用の満足度向上	利用者満足度	アンケート	期間中1回	22%以上	63%	MaaSアプリの導入による経路検索から決済までの完結など、利便性の向上が利用者から高く評価されたため
4	データ分析の施策活用	検討回数	協議会調査	期間中1回	1回	5回	ターゲット分析の結果及び利用者の属性や移動ニーズを可視化。協議会で戦略見直しを議論した。
5	周遊性の向上	タッチポイント利用回数	ジョルダンDB	毎月	3,600回	2,339回	一人当たりの利用回数は想定以上だったものの、アプリ利用者数等の全体の母数が不足。

MLIT Copyright © 2025 by MLIT. All rights reserved.